川越再発見 17

川越城の七不思議

広報室 Tel 224-5495

小江戸川越検定の設問からテーマを選び、まちの魅力を紹介します。

設問 川越城の七不思議にあるものは？
①鐘楼の柱 ②城中蹄の音 ③置いてけ堀 ④竜虎石

皆が寝静まるころ、不思議にも城中には合戦の音が聞こえてきます。不安になった殿様が易者に占ってもらうと、城中の戦の図が災いしているとのこと。調べてみると、戦屏風図が一双見つかりました。その半双を養寿院に寄進すると、その夜から矢叫びや蹄の音が聞こえなくなりました。

これは、川越城の七不思議の一つ「城中蹄の音」の話。半双の屏風は、当時の城主・酒井重忠が養寿院に寄進し、今も秘蔵の品として保管されています。七不思議を裏付ける物の一つです。徳川家に仕えていた絵師・住吉具慶の江戸初期の作と言われており、堀川夜討の戯曲の一部を描いています。舞台は京都。義経や弁慶と思われる人物や、攻めてくる軍勢が描かれています。中央図書館・市立博物館の図録（＊）で見ることができます。残る半双の行方は分かっていません。 **答え②**

屏風の一部。左の場面は、弁慶の奮闘の様子

＊「第2回特別展 川越の指定文化財」（平成2年・市立博物館発行）

農政課 Tel 224－5939

ナシ

バラ科に属するナシ。日本で栽培される果物の中でも歴史が古く、弥生時代にはすでに食べられていたといわれています。さまざまな品種が作られていて、皮が褐色の物を赤ナシ、黄緑色の物を青ナシと呼んでいます。赤ナシは果皮にザラザラの斑点があり、水分を果実に閉じ込めるコルク栓の役割をします。

川越では赤ナシの「豊水」や「幸水」が栽培され、8月初めから収穫。庭先で直売もされています。今回取材したナシ農家の内田博謙さん（63歳・藤倉）は、「木の勢いを見ながら余分な実を取り除き、1本の木から約300個のナシを収穫します。直売用の梨は、完熟して食べごろになってから収穫するので、買ってからなるべく早く食べてほしいです」。残暑で食欲が落ちてくるこの時期、川越のナシで水分とエネルギーを補いませんか。

7月中旬、褐色になる前のナシ。まだ斑点が目立ちます

「ぶどう・なし直売マップ」あります！

農政課（本庁舎5階）・農業ふれあいセンター・各出張所で配布。取れたてのぶどう・なしをぜひ味わってください。

編集後記

どんぐり

暑い夏を、オリジナルのうちわで乗り切ろう！7月16日、市立博物館でうちわ作りが行われました。竹の骨組みに紙をはり、葉っぱを挟んだり、紙に絵を描いたり。どこにどの葉っぱを置こうかと、いろいろ試してみる子どもたち。一時間半ほどで完成。太陽にかざすと、葉っぱの模様が、より浮かび上がります。できたばかりのうちわが壊れないように、そーっとあおぐ子どももいました。今年の夏、大活躍しそうです。

広報川越1252
■発行日／平成23年8月10日（毎月10日・25日発行）
■発　行／川越市　〒350－8601埼玉県川越市元町1丁目3－1　http://www.city.kawagoe.saitama.jp/
■編　集／広報室 Tel 049－224－8811（代表） Fax 049－225－2171
■印　刷／㈲新広社

この印刷物は、印刷用の紙へ、リサイクルできます。 リサイクル適性Ⓐ